

独創人間のすすめ



東京大学国際・産学共同研究センター長

教授 軽部 征夫

Isao Karube

21世紀を迎え、わが国は新たなパラダイムの出発点にたっている。現在のわが国にとって最も重要なことは産業の再生を図り、持続的な経済発展を成し遂げることである。すなわち競争力のある技術を開発する必要がある。また、独創性のある人材の育成がきわめて重要である。

それでは独創性とはどういうことであろうか。広辞苑を開いてみると「模倣によらず自分一人の考えで独特なものを作り出すこと」とある。いわゆる世界にひとつしかないものや技術をつくれれば独創性があるといえるのではないだろうか。それではこの独創性を身につけるためにはどのようにしたらよいのであろうか。世界の発明王として有名なエジソンは彼の部下が技術開発に悩み、困り果てて助けを求めたときに次のように助言したと言われている。「アイデアが出ないのは君の理性が邪魔しているからだ。頭の中にある常識という理性を頭の外に放り出せば独創的なアイデアがどんどんわいてくるよ」。ノーベル賞学者の江崎玲於奈先生、利根川進先生も同じことを言っている。常識にとらわれないこと、あるいは常識を疑うことが独創の原点である。確かにわれわれは常識的な枠の中でものごとを考えてしまうので常識的な発想になってしまうのである。思いきって非常識な発想を持つのも一つの手である。

一方、アイデアは知恵と知恵の新しい組み合わせによって生まれるものであるから知恵は十分に頭の中に蓄えておかなければならないだろう。これらの知恵が頭の中で相互作用したり、組合わさったりしている間に目的とする閃きが突然生まれるようである。閃きが起こるのは必ずしも考えている時ばかりとは限らない。乗り物に乗ったり、散歩中に閃きが飛び出すことがしばしばある。どうも意識していないときでも脳で思考が進んでいるようである。人間の脳は左脳と右脳で機能を分担しており、左脳に情報（知恵）の集積があればこれらが互いに結びついて右脳から閃きが起こるとされている。

日本人はどうも受験などで左脳を酷使しすぎるように思う。右脳を活用する習慣を身につけた方がよい。私の経験ではアイデアを出す癖をつけることが重要と思われる。最初から画期的なアイデアを期待するのは無理であるが、ちょっとしたアイデアを生みだし磨き上げることによって次第にアイデアを成長させることが可能である。まずは非常識な発想からアイデアにチャレンジしていただきたい。21世紀のわが国の経済発展には独創人間は不可欠である。